

国民生活・社会統計ワーキンググループにおける審議状況

【第1回：6月16日】

審議テーマ	基本的な考え方(案)ポイント	審議状況：主な委員意見等
学校基本調査の改善	<p>○ 新幼保こども園における非常勤職員の把握については、平成30年度に一般統計調査を実施し、調査事項を精査。平成32年度の学校基本調査から把握。</p> <p>○ 学校基本調査の休職等教員数における休職等理由区分の結核を削除する見直しを、平成30年度調査で実施。</p> <p>○ 中学校卒業生の就業形態別の把握については、平成29年度に一般統計調査を実施し、平成30年度の学校基本調査で把握。</p> <p>○ 学校基本調査の新幼保こども園に係る調査事項について、厚生労働省が実施している社会福祉施設等調査との重複是正を検討し、平成32年度調査の企画時期までに結論。</p>	<p>○ 一般統計調査の結果を本調査の結果に取り込むことも含めて検討し早期に対応することとし、基本的な考え方(案)のとおり整理</p> <p>・平成32年度まで待つて調査項目を特定するのではなく、まず非常勤職員数を把握し、カテゴリーを順次増やしていく方が適切。新しい選択肢を加えるのに、スピード感が遅い。</p> <p>○ 中学校卒業生だけではなく、高校、大学の卒業後の進路の把握方法、表章の仕方も含めて整理し、再審議</p> <p>・中学校卒業生の就業者の正規・非正規別の把握については、他の労働統計を参照して、カテゴリーを検討。中学校卒業生のみ、調査項目に「不明」を追加すると、他の学校種と整合性に問題。</p>
国勢調査の改善	<p>○ 平成32年国勢調査の調査方法において、更なるオンライン調査の促進、調査票回収方法の多様化に伴う地方事務の負担軽減方策を検討し、平成32年調査の企画時期までに結論。</p>	<p>○ 具体化した記載を加えることで、基本的な考え方(案)のとおり整理</p> <p>・若年層の回答率など、オンラインの利用状況を検証し、その検証結果を次回調査の改善に活用。</p>
国民生活基礎調査の改善	<p>○ 非標本誤差の縮小に向けた更なる取組として、本調査及び国勢調査の調査対象世帯に係る属性等の比較・検証、本調査結果及び国勢調査結果の分析に係る乖離の縮小に向けた検討、回収率向上</p>	<p>○ 一部文言の修正をした上で、基本的な考え方(案)のとおり整理</p>

審議テーマ	基本的な考え方（案）ポイント	審議状況：主な委員意見等
	<p>に向けた調査方法の検討を平成31年調査の企画時期までに行い結論。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国民生活基礎調査の調査単位の設定に係る準備調査等の在り方等について検討し、平成31年調査の企画時期までに結論。 ○ 国民生活基礎調査の推計方法に関する検討状況、結果精度に関する情報等について、提供の充実を平成30年度から実施。 	